

## 令和4年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校の学校課題を「自己の目標を高く掲げ、豊かな人間形成をめざす生徒の育成」とし、「活力ある学校」、「保護者や地域の期待に応えられる学校」をめざして日常の教育活動を実践してきた。また、生徒が豊かな成長を実現していくために、日々の教育活動を様々な視点から点検し、見直しを行っている。

本校生徒が将来、社会で活躍するためには、自ら課題を見つけ、計画を立て主体的に解決できるようになること、また、社会の変化を冷静に把握し、適切に判断して行動できる力を身につけることが必要である。今年度もこの観点から、生徒の持っている資質や能力を一段と高め、調和のとれた人格を陶冶するための学校課題を設定し、その対策を講じる具体的な取り組みを行った。

各重点課題に対する具体的な取組状況や評価等は、別紙(様式5)の「8 学校アクションプラン」に記載したとおりである。当初の目標を達成できない部分もあったが、全体として、概ね目標を達成したと考える。

重点課題を最終的に評価するにあたり、学校評議員の方々から多くの意見や提言をいただいた。これらの意見や提言は、新学習指導要領の実施に向けての本校教職員の指針となることから、次年度の計画や方策に活かしていきたいと考えている。

予測不能な社会的変化に適応することが求められる時代にあって、学校評価をこれまで以上に計画的・組織的・継続的に実施して、本校教育活動の推進に取り組みたい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本校の現状や取組の成果を踏まえ、保護者や地域から、より一層信頼される学校づくりを目指し、今後、次の3つに重点を置いて教育活動の改善と推進に努めていきたい。

- ① 時代に即し、3年間見通した学習・進路指導
  - ・主体的に学習に取り組む態度を育成するため、授業と個々の適性に応じた指導の改善を行う。
  - ・入学後、学習習慣が早期に定着し、継続して部活動と両立できる指導体制を構築する。
  - ・ICT関連の校内体制を確立し、授業での活用できる指導体制を整える。
- ② 社会や人と交わり、将来を考える機会の充実
  - ・人を思いやり、故郷を愛し、未来創出の一翼を担う気概を持たせる。
  - ・生徒自身が健康を維持するための自己管理能力を高めて充実した学校生活を過ごせるよう、正しい食生活や十分な睡眠を確保する意識付けを行う。
  - ・社会で活躍する先輩の話聞くなど、生き方や働く意味を考える機会を充実させる。
- ③ 生徒が自律的で主体的に行動できる仕組みづくり
  - ・基本的な生活習慣の確立を促し、あらゆる教育活動の場を通して生徒が主体的に行動する場を確保するとともに社会的マナーや人間性を向上させる態度を養う。
  - ・生徒への関わり方の見直しや多忙感の解消に向けた教員の意識改革を推進する。
  - ・多くの生徒が達成感、満足感を得ることができるようチーム学校で取り組む。